



**JR弘前駅からのアクセス**

※道路状況により所要時間が変わりますのでご注意ください。

- (1) 徒歩：約20分
- (2) バス：約15分(駅前3番のりば乗車、弘前大学前下車)
- (3) タクシー：約 5分



国立大学法人  
**弘前大学**

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地  
TEL.0172-36-2111(代表)

人文・地域研究科教務グループ TEL.0172-39-3960  
メールアドレス jm3960@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学ホームページ  
<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>



弘前大学入試課ホームページ  
<https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp/>



農学 × 経営学  
社会学 × 工学

令和5年度

**弘前大学大学院  
地域共創科学研究科**

Graduate School of Sustainable Community Studies 2023

地域リノベーション専攻

産業創成科学専攻



HIROSAKI  
UNIVERSITY

# HIROSAKI UNIVERSITY

## 研究科長メッセージ



弘前大学大学院  
地域共創科学研究科長  
片岡 俊一

日本の地域社会は人口減少、少子高齢化、若者の域外流出、労働力不足など多くの社会問題に直面しています。地域社会をいかに力強く持続させていくかが大きな課題となっています。

地域共創科学研究科は、このような地域の課題に取り組むべく、令和2年4月に誕生したまだ新しい大学院です。取り組む観点として「地域を守る」、「地域から攻める」を挙げました。地域リノベーション専攻は、地域を守るうえで重要な社会学と工学を軸に、産業創成科学専攻は、地域から攻めるうえで重要な経営学と農学を軸に、高度な専門性と俯瞰性を兼ね備えた人材を育成します。

私たちは「共創」という言葉に、ふたつの意味を込めました。ひとつは文理共創です。地域共創科学研究科では、文系と理系の大学院生が、それぞれの専門性を意識しながら、協力して課題に取り組み、新しい価値の創造を目指します。これは、ひとりの人間のなかに文系と理系の素養を融合させようとする文理融合とは異なる考え方です。私たちは、さまざまな分野の専門家が、刺激し合い協力しあうことを重視しました。なぜならば、複合的な地域の課題は、ひとりの超人によって解決できるものではなく、さまざまな専門分野の力を結集し、多角的に取り組むことによってしか解決できないからです。

ふたつ目は域学共創です。大学院生や大学教員が地域の専門家等と共に、地域の現場が抱える課題を理解し、互いの専門知や実践知を尊重しながら新たな価値の創造を目指します。地域には多様な人々が暮らしており、地域課題を解決するには、多くのステークホルダーの意見を取り入れたり、対話を重ねたりする必要があります。また行政関係者や企業家、地域のNPOや専門家との協働も欠かせません。

皆さんが、地域共創科学研究科で専門性と俯瞰性を鍛え、異分野の専門家や地域の実践者と共創すれば、地域社会の未来は必ず拓かれると確信しています。

### INDEX

研究科長メッセージ	1
理念・専攻・3つのポリシー	2
地域リノベーション専攻	4
産業創成科学専攻	6
研究環境、社会人支援制度	8
大学院で学ぶために必要となる主な経費、学費・奨学制度	9
入学試験	10
新入生の声	11
在学生の声	12
研究紹介	14
修了生の声	16
就職支援、進路状況	17

# 地域共創科学研究科

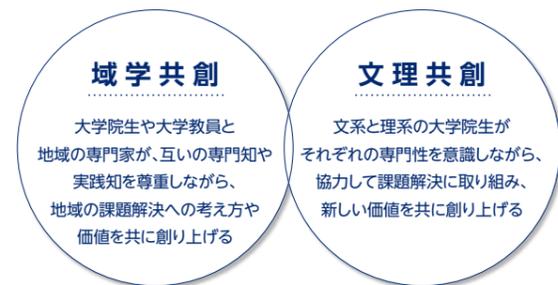
Graduate School of Sustainable Community Studies

人口減少が進む日本の地方では、コミュニティの維持や産業の発展が困難な状況にあります。地域共創科学研究科は、この現状を打破するために、大学の専門的な知識と地域社会が持つ実践的な知識を交差させ、新しい価値を共に創造することを「地域共創」と位置づけ、地域共創を科学する研究科を目指します。

## 理念

### 地域共創科学研究科における“共創”

それぞれに研究分野を持つ学生が、互いの専門性を尊重し合い、新たな価値を創出すること。



## 専攻

### 地域リノベーション専攻

社会学と工学を中心に、地域づくり・防災・自然エネルギーの活用などの専門性を高めつつ、地域の専門家とともに「地域を守る」方法を構想します。

### 産業創成科学専攻

農学と経営学を中心に、農水産物の高付加価値化や商品流通などの専門性を高めつつ、地域の専門家とともに「地域から攻める」方法を構想します。

## 3つのポリシー

### 地域共創科学研究科

#### アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

##### 1. 教育理念・目標

本研究科では、社会科学・工学・農学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と研究領域の垣根を越えた俯瞰性を兼ね備えた高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成する。

##### 2. 求める学生像

学士課程等で修得してきた分野の基礎的な知識のほか、地域の特性や課題を理解しながら、異分野にも興味関心を持ち、課題解決等に向け実践的に取り組む意欲と行動力のある者。

#### カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

##### 1. 域学共創に必要な基礎スキルの修得

**スキル科目** 共創の基盤となる、エビデンスに基づいた地域社会の把握や、知的財産を活用した価値創出を学修する。

##### 2. 専門性と俯瞰性を修得

**専攻科目** 共創の基盤となる専門性と俯瞰性を身に付けるため、異分野にまたがる専攻科目を設定。

##### 3. 域学共創・文理共創に資する能力の修得

**地域共創科目** 異分野の専門家からなるチームが協働することの重要性を理解し、協働による地域社会の機能維持や産業発展に資する計画を立案し、実行することで新たな価値を創造(共創)する力を身に付ける。

#### ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■地域社会の未来について、専門的・俯瞰的知識を用いて、より良い在り方を構想できる力の修得

■地域の課題解決のために、さまざまな分野の構成員からなるチームを自ら組織し、フロントランナーとして先頭立って運営できる力の修得

■地域社会の機能を持続的に維持したり、地域社会の礎となる産業を発展させたりする計画を立案し、粘り強く実施することで新たな価値を創造(共創)できる力の修得

## 地域リノベーション専攻

#### アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

- 地域の特性や潜在的な資源等を深く理解し、地域を支える機能の維持や再生に必要な(社会学または工学などの)基礎的な知識を身につけている人
- 自らの専門に留まらず、異分野にも興味関心を持ち、異分野の専門家と一緒に地域の未来を構想し、その実現にむけて実践的に取り組む意欲と行動力のある人
- 地域社会の機能を維持し再生するために、地域の専門家や多様なステークホルダーと協働しながら、組織的に課題を解決する意欲のある人

#### カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

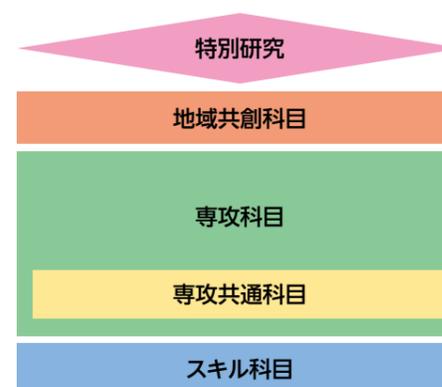
- 地域の特性や潜在する資源を活用し、地域社会の機能を維持し再生する方策を構想できる力を育成するために、専攻科目として社会学や工学などの異分野にまたがる授業科目群を置きます。
- 異なる分野の研究者や地域の専門家と共創することの重要性を理解し、自らの専門性を位置づけることができるように、専攻共通科目として「地域リノベーション特論」を置きます。
- 地域を支える機能を維持し再生するために立案した政策や計画を多面的に評価できるように「政策・事業評価演習」を置きます。
- 持続可能な地域の未来を構想し、その実現に必要な政策や計画を論理的・体系的に考える能力を育成するために、修士論文の作成を目指した特別研究を置きます。

#### ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

- 社会学や工学などの専門的・俯瞰的知識を用いて地域の特性や潜在する資源を的確に把握し、持続可能な社会へと機能転換する方策を意欲的に構想できる力を身に付けていること。
- 持続可能な地域社会を共創によって実現するために、自らの専門と異なる分野の研究者や地域の専門家を含めた体制を構築し、フロントランナーとして先導的に運営できる力を身に付けていること。
- 多様なステークホルダーの意見などを総合しながら、地域に密着した政策や計画を立案することで新たな価値を創造(共創)できる力と、その効果を多面的に評価できる力を身に付けていること。

## カリキュラムの特徴

本研究科では、社会科学・工学・農学の科目を幅広く学びながら専門性と俯瞰性を高め、地域共創を先導する人材に必要な資質や能力を身に付けるため、「スキル科目」、「地域共創科目」、「専攻科目」、「特別研究」の4つの科目区分を設定しています。



#### 修了要件

科目区分	単位数	要件
◆スキル科目	2単位	必修2科目2単位
◇地域共創科目	4単位	必修2科目4単位
◇専攻科目	16単位	必修2科目(専攻共通科目)4単位、 選択必修12単位
◆特別研究	8単位	選択必修2科目8単位
計	30単位	

## 産業創成科学専攻

#### アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

- 地域の課題を深く理解し、課題を解決するために必要な(農水産学または経営学などの)基礎的な知識を身につけている人
- 自らの専門に留まらず、異分野にも興味関心を持ち、異分野の専門家と一緒に課題解決に向けて科学的に研究し、実践的に取り組む意欲と行動力のある人
- 地域産業の発展のために、域内だけで完結することなく、域外との連携も視野に入れた外向き志向で地域課題を解決する意欲のある人

#### カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

- 地域産業の課題を十分に理解し、その解決のために必要となる専門的な知識を修得させるために専攻科目として農水産学や経営学などの異分野にまたがる授業科目群を置きます。
- 地域の産業特性と課題に対して、自らの専門性を位置づけることができるように、専攻科目として「地域産業創成特論」を置きます。
- 農水産学や経営学など各々の専門性による付加価値、さらにはそれらの共創による付加価値を生み出すための構想力やマネジメント力を修得させるために「共創価値創出演習」を置きます。
- また、地域産業の課題を探究し、課題解決にむけたプランを科学的・論理的・体系的に考え、実践し得る能力を育成するために、修士論文の作成を目指した特別研究を置きます。

#### ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

- 農水産学や経営学などの専門的・俯瞰的知識を用いて、地域産業の特性や課題を的確に把握し、地域社会を維持・発展させるようなローカルにおける生業(なりわい)を構想する力を身に付けていること。
- その生業をローカルからグローバルに展開し、地域の価値を高め、地域経済を牽引する産業を構想できる力を身に付けていること。
- 各々の専門性を活かしつつ、異分野の専門家との共創によって地域の価値を高める新しい知を生み出すための共創価値を創出する力を身に付けていること。
- 科学的思考に基づいた研究力を基盤とし、地域資源を活用した商品を開発する力、マーケット志向による企画を提案する力、さまざまな分野の専門家による共創状態をフロントランナーとしてマネジメントする力を身に付けていること。

# 地域リノベーション専攻



## ■入学定員

15名

## ■研究領域・授与する学位

研究領域	学位
コミュニティデザイン	修士(地域共創社会学)
レジリエンステクノロジー	修士(地域共創工学)

## ■人材育成

### 『地域を守る』 高度専門職業人の養成

社会科学・工学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と俯瞰性を兼ね備え、異分野の専門家や地域の専門家と協働し、「地域を守る」という観点から、新たな価値を創造(共創)できる高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成します。

## ■想定している進路

- ・ 国の機関
- ・ 地方自治体(行政職・技術職)
- ・ その他NPO団体
- ・ コンサルタント業
- ・ シンクタンク
- ・ 地域貢献型企業
- ・ 地域密着型企業
- ・ 電気/ガス/熱供給/水道業
- ・ 建設業
- ・ 保険業
- ・ エネルギー関連業 など

## ■教育カリキュラム

### 地域共創科目・スキル科目

地域の課題を把握する基礎的な手法や、地域の知的財産を管理する手法を学ぶことができます。また、地域社会の課題を解決する先進的な事例研究の成果を踏まえながら、異なる専門分野の学生が協働しながら、創造力を発揮する実践的な学習を進めて、総合的に物事を考え、実行する力を身に付けます。

## ○授業科目

### 〈地域共創科目〉

#### 必修科目

- ・ 地域共創特論
- ・ 地域共創演習

#### 選択科目

- ・ インターンシップA
- ・ インターンシップB

### 〈スキル科目〉

#### 必修科目

- ・ 地域データ解析特論
- ・ 知的財産管理特論

## 専攻科目

専門性を活かしながら、異なる研究分野と共創する特論や演習を履修し、自らの専門性を位置づけ、異分野の専門家と協働する素地を得ることができます。また、修士論文の作成を目指した特別研究を組み合わせることで、地域が必要とする高度専門職業人の能力を身に付けます。

## ○授業科目

### 必修科目

- ・ 地域リノベーション特論
- ・ 政策・事業評価演習

### 選択必修科目

- ・ 地域調査演習
- ・ 地域研究特論
- ・ 生態人類学特論
- ・ グループ・ダイナミクス特論
- ・ 社会心理学演習
- ・ メディア社会学特論
- ・ 家族社会学特論
- ・ 都市社会学特論
- ・ 地域社会学演習
- ・ 応用社会学特論
- ・ 都市・農村計画特論
- ・ 社会教育特論
- ・ 人文地理学特論
- ・ 地域健康教育特論
- ・ 社会教育演習
- ・ コミュニティデザイン演習
- ・ 地形環境学特論
- ・ 防災地質学特論
- ・ 環境影響評価特論
- ・ 地理情報解析特論
- ・ バイオマス資源探査学特論
- ・ 生物多様性保全特論
- ・ 地盤震動工学特論
- ・ 防災構造工学特論
- ・ 循環型エネルギー工学特論
- ・ バイオマスエネルギー特論
- ・ エネルギー気象学特論
- ・ 風力エネルギー工学特論
- ・ 複合災害を考える
- ・ レジリエンス科学特別演習

## 特別研究

地域共創科目やスキル科目、専攻科目を交えて体系的に修得した専門知と実践知を踏まえ、修士論文の作成を目指します。

## ○授業科目

### 選択必修科目

- ・ コミュニティデザイン特別研究I
- ・ コミュニティデザイン特別研究II
- ・ レジリエンステクノロジー特別研究I
- ・ レジリエンステクノロジー特別研究II

## ■修了要件

地域共創科目から4単位以上、スキル科目から2単位、専攻科目から16単位以上修得し、特別研究8単位を含む合計30単位以上修得するとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

## ■取得可能な資格

- ・ 専門社会調査士

## ■履修モデル

〈研究テーマ例〉自然エネルギーの導入による地域経営の自立化			〈学位〉修士(地域共創社会学)
科目区分	1年次		2年次
地域共創科目	インターンシップA	インターンシップB 地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論	知的財産管理特論	
専攻科目	地域リノベーション特論 政策・事業評価演習 地域調査演習 地域研究特論	バイオマスエネルギー特論 応用社会学特論 社会教育演習 コミュニティデザイン演習	農業経営学特論
特別研究	コミュニティデザイン特別研究I		コミュニティデザイン特別研究II

〈研究テーマ例〉産学連携を通じた地域防災の推進			〈学位〉修士(地域共創工学)
科目区分	1年次		2年次
地域共創科目	インターンシップA	地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論	知的財産管理特論	
専攻科目	地域リノベーション特論 政策・事業評価演習 グループ・ダイナミクス特論 防災地質学特論	地盤震動工学特論 防災構造工学特論	レジリエンス科学特別演習 産学連携学特論
特別研究	レジリエンステクノロジー特別研究I		レジリエンステクノロジー特別研究II

## ■教員紹介

研究領域	氏名	研究指導分野	氏名	研究指導分野
コミュニティデザイン	杉山 祐子	生態人類学, 地域研究	白石 壮一郎	地域研究, 社会学
	曾我 亨	生態人類学, 地域研究	李 秀真	社会学
	羽瀨 一代	メディア文化論, 文化社会学	土井 良浩	地域計画学
	増山 篤	地理情報システム	平井 太郎	社会学
	戸塚 学	スポーツ・健康科学	古村 健太郎	心理学
	高瀬 雅弘	社会学	花田 真一	政策の定量評価
	日比野 愛子	社会心理学	深作 拓郎	教育学(社会教育学)
	近藤 史	地域研究, 環境社会学	松井 歩	人文地理学
レジリエンステクノロジー	小岩 直人	自然地理学	本田 明弘	機械工学, 風工学
	長南 幸安	化学	上原子 晶久	土木建築工学
	片岡 俊一	地震工学	島田 照久	エネルギー気象学
	梅田 浩司	応用地質学	中村 剛之	動物分類学
	官 国清	バイオマスと材料化学		

教員紹介の詳細はこちらからご覧いただけます。

<https://scs.hirosaki-u.ac.jp/professor/>



# 産業創成科学専攻



## ■入学定員

15名

## ■研究領域・授与する学位

研究領域	学位
食産業イノベーション	修士(地域共創農学)
グローバルビジネス	修士(地域共創経営学)

## ■人材育成

### 『地域から攻める』 高度専門職業人の養成

社会科学・農学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と俯瞰性を兼ね備え、異分野の専門家や地域の専門家と協働し、「地域から攻める」という観点から、新たな価値を創造(共創)できる高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成します。

## ■想定している進路

- ・ 製造業(食品関係)
- ・ 複合サービス業(農協、観光関係)
- ・ 国際流通小売業
- ・ 商社
- ・ コンサルタント業
- ・ ソーシャルビジネス
- ・ 起業 など

## ■教育カリキュラム

### 地域共創科目・スキル科目

地域の課題を把握する基礎的な手法や、地域の知的財産を管理する手法を学ぶことができます。また、地域社会の課題を解決する先進的な事例研究の成果を踏まえながら、異なる専門分野の学生が協働しながら、創造力を発揮する実践的な学習を進めて、総合的に物事を考え、実行する力を身に付けます。

## ○授業科目

### 〈地域共創科目〉

#### 必修科目

- ・ 地域共創特論
- ・ 地域共創演習

#### 選択科目

- ・ インターンシップA
- ・ インターンシップB

### 〈スキル科目〉

#### 必修科目

- ・ 地域データ解析特論
- ・ 知的財産管理特論

## 専攻科目

専門性を活かしながら、異なる研究分野と共創する特論や演習を履修し、自らの専門性を位置づけ、異分野の専門家と協働する素地を得ることができます。また、修士論文の作成を目指した特別研究を組み合わせることで、地域が必要とする高度専門職業人の能力を身に付けます。

## ○授業科目

### 必修科目

- ・ 地域産業創成特論
- ・ 共創価値創出演習

### 選択必修科目

- ・ 食品栄養科学特論
- ・ 食品工学特論
- ・ 食品機能生理学特論
- ・ 園芸植物機能学特論
- ・ 地域産物活性化特論
- ・ 水産資源管理学特論
- ・ 食品副産物資源の飼料利用特論
- ・ 植物遺伝資源栽培特論
- ・ 非破壊分析特論
- ・ 食料科学特論
- ・ 食サイエンス特別演習
- ・ ベンチャービジネス特論
- ・ コミュニティビジネス特論
- ・ グローバルビジネス特論
- ・ サービスマーケティング特論
- ・ プロダクトデザイン特論
- ・ 地域イノベーション特論
- ・ 経営情報分析特論
- ・ 中小企業特論
- ・ 農産物輸出ビジネス特論
- ・ 国際食品マーケティング特論
- ・ 食品循環流通学特論
- ・ 地域協同組合論
- ・ 国際フードビジネス特論
- ・ 国際農業開発特論
- ・ 農業経営学特論
- ・ 産学連携学特論
- ・ 会計応用分析特論

## 特別研究

地域共創科目やスキル科目、専攻科目を交えて体系的に修得した専門知と実践知を踏まえ、修士論文の作成を目指します。

## ○授業科目

### 選択必修科目

- ・ 食産業イノベーション特別研究I
- ・ 食産業イノベーション特別研究II
- ・ グローバルビジネス特別研究I
- ・ グローバルビジネス特別研究II

## ■修了要件

地域共創科目から4単位以上、スキル科目から2単位、専攻科目から16単位以上修得し、特別研究8単位を含む合計30単位以上修得するとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

## ■取得可能な資格

- ・ 食の6次産業化プロデューサー LEVEL3 (国家戦略・プロフェッショナル検定)

## ■履修モデル

〈研究テーマ例〉 地域の特性にあわせた機能性食品の開発		〈学位〉 修士(地域共創農学)
科目区分	1年次	2年次
地域共創科目	インターンシップA 地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論 知的財産管理特論	
専攻科目	地域産業創成特論 共創価値創出演習 ベンチャービジネス特論 食品栄養科学特論	地域産物活性化特論 食料科学特論
特別研究	食産業イノベーション特別研究I	食サイエンス特別演習 地域研究特論
		食産業イノベーション特別研究II

〈研究テーマ例〉 加工食品の高付加価値を実現するビジネスモデル研究		〈学位〉 修士(地域共創経営学)
科目区分	1年次	2年次
地域共創科目	インターンシップA 地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論 知的財産管理特論	
専攻科目	地域産業創成特論 共創価値創出演習 ベンチャービジネス特論 農産物輸出ビジネス特論	グローバルビジネス特論 国際食品マーケティング特論 地域産物活性化特論 プロダクトデザイン特論
特別研究	グローバルビジネス特別研究I	社会心理学演習
		グローバルビジネス特別研究II

## ■教員紹介

研究領域	氏名	研究指導分野	氏名	研究指導分野
食産業 イノベーション	安川 あけみ	農芸化学, 染色, 家政	樋口 智之	農芸化学
	岩井 邦久	食品機能科学	津田 治敏	畜産物利用学
	佐藤 之紀	食品物性機能制御学	前多 隼人	食品科学
	中島 晶	食品安全生理学	島田 透	化学
	中井 雄治	農芸化学	房 家 琛	畜産学
	勝川 健三	花卉園芸学	吉田 渉	水産学
	君塚 道史	食品工学	林田 大志	農学
	西塚 誠	食品化学物質安全学, 疾患生物学	山元 涼子	農芸化学
グローバル ビジネス	大橋 忠宏	交通政策, 地域科学	大倉 邦夫	企業社会論
	森 樹男	国際経営論	佐藤 光輝	プロダクトデザイン
	黄 孝春	農産物貿易	成田 拓未	国際食品マーケティング論
	保田 宗良	マーケティング	柳 京熙	農業経済学
	泉谷 真実	食品循環流通経済学	佐藤 孝宏	国際農業開発論
	石塚 哉史	食料経済学	石本 雄大	国際フードビジネス論
	佐々木 純一郎	地域ブランド論	吉仲 怜	農業経営学
	内山大史	付加価値創造科学	高野 涼	農林社会学, 森林政策学
	高島 克史	経営戦略論, 起業論		

教員紹介の詳細はこちらからご覧いただけます。  
<https://scs.hirosaki-u.ac.jp/professor/>



## 研究環境

### 〈大学院生室など〉

大学院生が利用できる院生室として、グループワークやディスカッションなどでの活用を目的とした「コ・ワーキング(共創)」型1室と、授業の準備や論文執筆、学会資料の作成など静かな環境で自修できる「スタディ(自修)」型2室の、合計3室あります。また、実験室や演習室など研究に必要な環境が完全に整っています。



### 〈研究支援制度〉

大学院生の研究を支援するために、院生室にコピー機を設置しており、研究のために必要な文献の複写等で利用することができます。

### 〈相談員制度〉

大学院生の疑問や悩みに対応するために相談員制度があります。相談員は、相談者のプライバシーが保たれるよう、また、不利益が生じないように配慮しつつ、関係各所と連絡・協議して、問題解決にあたります。

授業科目、研究指導、成績評価に関する疑問・質問・苦情、メンタルヘルスやハラスメントに関する悩み、その他研究生生活全般に関する事柄について相談を受け付けています(相談者のあらゆる不安に応えられるよう、研究科だけでなく全学の相談窓口も設けています)。

また、専門の学生相談員・ハラスメント相談員を設け、授業や生活に関する相談のほか、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどに関する苦情を受け付けています。

深刻・重大な問題が生じた場合も、本研究科または弘前大学が責任をもって対応します。

## 社会人支援制度

### 〈教育方法の特例制度〉

社会人学生への特例として、正規の授業時間帯以外の時間帯等に授業または研究指導を受けることが可能な場合があります。希望者は、担当教員と事前に相談してください。

### 〈長期履修制度〉

#### 2年分の授業料で、最長4年間かけて研究に取り組むことができます

社会人の方の就学を容易にするとともに、経済的負担等の軽減を図るために長期履修制度を実施しています。この制度の適用対象者は、職業を有している者(自営業、臨時雇用、非常勤等を含む)で、認定された方は2年分の授業料で最長4年間かけて研究に取り組むことができます。

#### ■通常の学費(2年間在籍)

入学料	282,000円
授業料	535,800円(年額)×2年間

#### ■長期履修制度(4年間在籍)

入学料	282,000円
授業料	267,900円(年額)×4年間

## 大学院で学ぶために必要となる主な経費

◎検定料 ◎入学料 ◎授業料 ※改定となる場合があります

検定料	30,000円	入学料	282,000円	授業料(年額)	535,800円
-----	---------	-----	----------	---------	----------

※入学料に改定があった場合は、改定後の入学料が適用されます。  
※授業料は、原則として前学期・後学期に分割し、それぞれ267,900円を5月と10月に徴収します。  
※授業料に改定があった場合は、改定後の授業料が適用されます。

### ◎修学・研究活動に必要な保険の加入料

安心して修学及び研究活動ができるように、学生教育研究災害傷害保険(略称「学研災」)及び学研災付帯賠償責任保険(略称「学研賠」)への加入を推奨しています。

#### ■修士課程(2年)

学研災	1,750円	学研賠	680円
-----	--------	-----	------

## 学費・奨学制度

研究・勉学への意欲がありながら、経済的な理由によって本学大学院での修学が困難な学生や、優秀な学業成績・研究成果を持つ学生に学費等を支援するために、以下の奨学制度があります。

### 〈日本学生支援機構奨学金(貸与型)〉

奨学金の貸与月額は次のとおりです。

#### 【第一種(無利子)】

月額50,000円または88,000円

※「特に優れた業績による返還免除」について

大学院在学中に優れた業績を挙げた場合、大学院で貸与を受けた第一種奨学金の全額又は一部の返還が免除されることがあります。

#### 【第二種(有利子)】

月額/50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択

### 〈岩谷元彰弘前大学育英基金(奨学金給付事業)〉

成績優秀でかつ経済的理由により修学が困難な学生に対して、一人20万円の奨学金を給付します。

※上記支援の対象者は選考により決定されます。なお、詳細については必ず、下記担当にお問合せください。

これ以外にも様々な奨学制度があります。詳細はお問い合わせください。

■入学料・授業料免除等の確認はこちらから

[弘前大学ホームページ](#) ▶ [学生生活](#) ▶ [入学料・授業料免除等](#)



学務部学生課生活支援グループ経済支援担当 TEL.0172-39-3117

## 入学試験

### 2024年度 入試日程(予定)

<b>〈第1期募集〉</b> ●出願期間 2023年7月10日(月)～7月14日(金) ●試験実施日 2023年8月21日(月) ●合格発表日 2023年8月31日(木)	<b>〈第2期募集〉</b> ●出願期間 2023年12月4日(月)～12月8日(金) ●試験実施日 2024年2月4日(日) ●合格発表日 2024年2月8日(木)
--	--

弘前大学大学院地域共創科学研究科(修士課程)の入学者の一般選抜は、「第1期」と「第2期」で実施する予定です。いずれにおいても、試験出願前に入学後の指導予定教員と研究に関する事前協議を行ってください。

### 2024年度 募集人員

専攻	研究領域	募集人員
地域リノベーション専攻	コミュニティデザイン	15名 (研究領域毎に半数程度)
	レジリエンステクノロジー	
産業創成科学専攻	食産業イノベーション	15名 (研究領域毎に半数程度)
	グローバルビジネス	

### ■募集要項請求・問い合わせ先

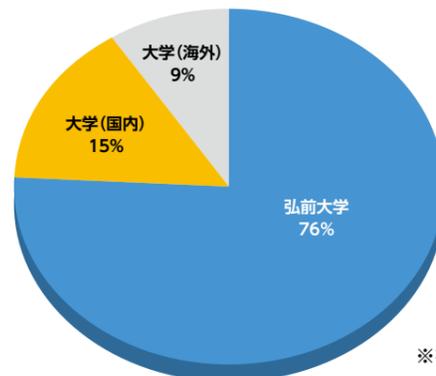
請求先	弘前大学 学務部 入試課
請求先住所	〒036-8560 青森県弘前市大字文京町1番地
電話番号	0172-39-3973 / 0172-39-3193

弘前大学入試課ホームページ  
<https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp/>

請求方法等、詳細をご確認ください



## 令和4年度入学者(出身大学別)



※社会人学生3名、外国人留学生3名

## 新入生の声

### インフラと防災に役立つ柔軟な発想力を

#### 地域リノベーション専攻 レジリエンステクノロジー研究領域 新1年生

こばやし ゆうと  
**小林 祐登** さん

長野県 出身  
 弘前大学 理工学部 卒業



私が地域共創科学研究科を選んだ理由は、文理共創という教育理念から、これまで学んだことを多様な分野から見つめることで、社会に適した意見を発信できるようになると考えたからです。中でもレジリエンステクノロジー研究領域は工学、エネルギー学、理学分野が豊富で、多角的な視野によって成長できることが魅力です。

大学院では学部時代から取組んできた、防災と河川の氾濫現象の関わりについて研究を深めたいです。洪水で河川が氾濫した際に生じた堆積物の順番を調べることで、過去にその地域で洪水が起きたかどうかを知ることができます。実際に洪水被害被害のあった川での現地調査が必要なので、学部4年の時には豪雨被害を受けた中泊町の河川に足を運びました。ただし、生活を復旧させることが最優先なので、洪水後の堆積物はすぐに片付けられてしまいます。そのために過去の調査事例は極端に少ないですが、防災の観点において重要なことなので、その一助となれる将来性のある分野と思っています。

将来は地域のインフラの防災を考える職業に就きたいと考えています。人が生活する社会において、平常時も非常時もインフラは重要視されており、今後も躍進していく業界です。生活インフラは災害に強くなければならないので、その点において私の取り組む研究が、災害に対応できる建設地を見定める事前調査等に活かすことができると見据えています。地域共創科学研究科ではそういった業界に向けて、経済学や社会工学などの幅広い分野から検討するスキルを身に付けることができるので、柔軟な発想力をもって社会に貢献できる人材になれると思います。大学院での学びは高度で専門性は増しますが、将来に必ず結びつくはず。少しの興味でも挑戦してみることが、大きな成長に繋がるのではないのでしょうか。

### 食料経済学で社会に貢献できる人材に

#### 産業創成科学専攻 グローバルビジネス研究領域 新1年生

おばら もも  
**小原 桃々** さん

北海道 出身  
 弘前大学 農学生命科学部 卒業



学部1年次の講義を通し、国内市場の縮小や食料供給体制の脆弱性に驚き、食を取り巻く問題に強く関心を抱いたのが進学のかきかけです。その関心のもと、人が生きるために必要不可欠である農林水産業の持続的発展を目指すための思考力を養うべく、食料経済学を深く学びたいと考えはじめました。大学院に進めば輸出における先進事例の調査など、様々なフィールドワークを通して分析力やヒアリングスキルなどを養えると思い、進学を決意しました。

学部時代は牛肉輸出に焦点を当て、輸出マーケティング戦略の特徴について研究していましたが、大学院では対象とする品目や産地も拡大させて研究に取り組む予定です。研究の他には、ゼミのプロジェクトにも積極的に参加していきたいです。現在はジュノハートというサクラソボのブランディングについて調査しています。生産地である南部町などでヒアリング調査をするのですが、ネットにはない話を初めて聞けるので新鮮な発見があって面白く、本物の情報は現場にしかないと実感しています。

当研究科では異分野と交流する機会が多く、異なるバックグラウンドを持つ人との議論が増えるため、社会や自分の研究に対する視野が広がり、柔軟な発想の源になると考えています。それらの学びを経て、山積する日本の農業及び地域が抱える問題を解決し、発展のために必要な方策や手段を提供できる人材になれるよう努めたいと思います。また、大学院では社会において自身がどのように生きるのかを明確にでき、自身の可能性も広げることができます。私は進学することで、研究活動や勉強など自身の興味、関心のある分野に向き合う時間を作ることができました。それにより、現在は自らの専門分野でどのように社会貢献できるかと、未熟ながら真剣に考えることができています。



地域リノベーション専攻  
コミュニティデザイン研究領域  
1年

ほしひびき  
星響さん

宮城県 出身  
弘前大学 理工学部 卒業

### 多角的な視点から物事を考え 課題解決に取り組むことが出来る

私が地域リノベーション専攻を志望した理由は、文理共創の専攻であることから幅広い知識や考え方を身に付けることが出来るためです。学部時代は理工学部所属して専門的な知識を学んでいましたが、文系の学生とディスカッションを行うことで、理工学部では学べないアイデアの考え方や課題の捉え方があると強く感じました。また、情報技術などを活用して課題を解決するには理工学部の知識も必要性も感じました。当専攻ではそういった異分野の学生との交流で多角的な視点から地域の課題解決に取り組むことが出来ます。当初は就職を考えていましたが、それらのことが決め手となり、大学院進学の道を選びました。

私が現在取り組んでいる内容はメタ認知についての研究です。メタ認知とは「自分の認知過程について認知すること」を指しています。様々な領域で新しい情報や技術の重要性が増している世の中で、大量な情報の中から取捨選択して効率的に知識を獲得していくために、メタ認知はとても重要な働きをしてくれています。人によってネットがいいのか、本を読むほうがいいのか、知識獲得のために効果的な方法が異なります。正解のない答えが多い世界の中で「問題解決のために、どう考えて物事に付き合っているのか」を考え求めることが面白い点であり、やりがいを感じています。

自分のやりたいことがわからない、好きなことがわからないと相談されることが多くあるのですが、私自身も学部時代にそう考えることがありました。現在はやりたいこと、好きなことがあります。それは、自分が得意とする分野でモノやサービスを生み、世の中の課題のために喜んで使ってもらおうことです。この目標を見つけることができた理由は、とりあえず興味のある分野を片っ端からやってみたらだと思えます。時々壁にぶつかるとありますが、それを乗り越えて得られる知識こそが自分にとって好きなことになっているのだと思います。



地域リノベーション専攻  
レジリエンステクノロジー研究領域  
1年

おおつき えれな  
大槻映玲永さん

北海道 出身  
弘前大学 理工学部 卒業

### 地域の方々と協力し 青森の経済と産業をもっと豊かに

学部時代に再生可能エネルギーについて学んでいく中で、その再生可能エネルギーの導入が進まないのは技術的な課題だけでなく社会的な課題も多いことを知り、その両面について深く学びたいと思うようになりました。その際、地域共創科学研究科のカリキュラムを見て、工学的な知識だけではなく社会的課題を知るための基礎知識も学べるのがわかったので、進学することに決めました。

現在は風車が運転している時に、その後ろで発生している流れの現象を雪で可視化するという研究をしています。雪と風という自然を相手にしているため、凍えるほどの寒い状況で、なかなか思うように調べられないことも多いですが、流れの現象がはっきり見えた時や撮影できた時に喜びを感じます。昨年の夏には、風力エネルギーに対する県内の認知度を広げるため、地域共創科学研究科や理工学部、教育学部の学生、自治体の方々と協力して小学生向けの体験イベントの企画、運営をしました。走り切った後には達成感がありましたし、子どもたちと一緒に楽しむことが出来ていい思い出になりました。

また、学部生の時からご縁があって弘前観光コンベンション協会で、さくらまつり、ねぶたまつりなどの運営のお手伝いをさせていただいています。地域の方々と一緒にまつりを作っていく中で、自分も地域の一員になれているのだなとうれしく思いましたし、講義だけでは学ぶことができない知識や弘前の魅力をたくさん知ることができました。おかげで青森県という場所が好きになり、卒業後も住み続けたいと思うほどです。

青森県は風力発電の発電量が日本一という風の資源がとても豊富にある地域です。エネルギー資源が乏しい日本においてこの特徴は、将来的に青森県の経済や産業をもっと豊かになる可能性を秘めていると思います。この可能性を、地域の人と分野を超えて一緒に実現することが私の将来の夢です。



産業創成科学専攻  
食産業イノベーション研究領域  
1年

はやしみさき  
林美咲さん

群馬県 出身  
弘前大学 農学生命科学部 卒業

### 地域食材の付加価値の向上 健康維持に役立つ加工食品開発を

大学に入学したころから食品系の研究職に就きたいと考えていたため、大学院への進学はなんとなく考えてはいました。その状況で就職活動を始めたものの、コロナ禍で思うように講義を受けられなかった影響から、試験や面接で研究職に求められる知識や経験が、自分に不足していることを痛感しました。それと同時に、学部時代に食品成分の機能性に関する興味深い研究に出会えたことで、当研究科への進学を決意しました。

現在は青森県の特産品であるカシスに含まれる成分の機能性についての研究を行っております。天然に存在する多糖類は免疫調節に関与しますが、カシスに含まれる多糖類が免疫調節を示すことが明らかになったので、どのようなメカニズムや構造をしているのかを調べています。方法としては細胞に多糖類を添加して効果を調べるといって、細胞実験を重ねています。誰も明らかにしていないことを解明し、地域食材の付加価値の向上や、健康機能の維持に役立つ加工食品開発につながればいいなという思いを抱きながら、日々の研究に励んでいます。

学部時代から食品の機能性に興味があったので、将来は食品メーカーでの研究開発に携わりたいて考えていました。しかし、研究を深めていく中で、食品に含まれる成分が様々な疾病の予防や改善につながることを学び「食品素材」に興味を持つようになりました。修了後は食品と化学品を扱う素材メーカーへの就職が決まっているので、大学院で得た知識を活かし、より多くの人々の健康で豊かな生活に貢献できる人材になりたいと思っています。

就職か進学でとても悩みましたが、私は研究を深めたかったので、研究中心の充実した大学院生活を過ごしています。自分の意思を尊重し当研究科に進んだことで、視野が広がりました。学部時代よりも研究と学問をさらに深めることができ、将来の夢への選択肢を広げられると感じたので、悩んでいる人はぜひ挑戦してみてください。



産業創成科学専攻  
グローバルビジネス研究領域  
1年

さとう よう  
佐藤洋さん

青森県 出身  
弘前大学 人文学部 卒業

### 社会を経験したからこそ学びが深くなる 卒業後は専門知識をもつ農家に

地方銀行に勤務する傍ら、有給休暇や時間休暇を活用して大学院に通っています。金融業務を通じて事業者と接するなかで、事業経営に興味を持ったのがきっかけでした。近年は「人生100年時代」と言われていますが、定年退職後は家業である農業経営をやってみようと思ったのです。リンゴ農家としての準備を進めていくなかで、リンゴの栽培手法は生産者によってさまざまで、正解がないことに直面しました。また、流通経路が想像以上に複雑であることも初めて知りました。当専攻では、栽培の基礎理論を勉強しながら、リンゴの流通に関する最新研究についての知識を深めることができるため、今の自分にはうってつけの環境だと思い、入学を決めました。

現在は、基礎的なリンゴの栽培理論を学びながら、リンゴの流通・マーケティングについても勉強しています。今後は基礎知識を深めたのち、実際に生産・流通に携わる事業者と対話しながら、生産と流通構造の変化の兆しを掴むことができないかと考えています。

「日本一のリンゴ産地」といわれる青森県ですが、生産者の高齢化により、年々後継者不足が深刻化しています。いずれは、リンゴ生産農家の経済的魅力を高めることにつながる研究ができれば幸いです。自身もリンゴ農家として地域の生産者とともに活動しつつ、銀行業務で培った経験を活かし、地域の課題解決に取り組むのが夢ですね。

夢の実現に向けて知識を磨くことは、社会人になってからでも遅くはありません。むしろ、社会経験で得た気づきを活かしながら、学生や先生と考えを共有し合ったり、議論を深め合うことができるのは、社会人経験者ならではのメリットではないでしょうか。分野の垣根を越えて、自らの知見を共有し学び続けられる今の環境を今後の活動の糧にしていきたいと思っています。



RESEARCH HIGHLIGHTS ①

市民・地域組織主体の地域づくりを生み出す



土井 良浩

コミュニティデザイン研究領域

(E-mail) doi@hirosaki-u.ac.jp

高度経済成長期に住民運動が勃発して以来、行政の計画策定への市民参加の普及、NPOセクターの成長、官民協働の浸透、全国各地への地域自治組織の拡がりなど、地域政策は中央集権的に行使されるものから、市民の生活基盤やニーズ、地域の特性に基づいて形成されるものに変化してきました。一方、都市化や人口減少社会の進行に伴い、従来の地域活動を担っていた地縁組織の維持・継続が困難になり、市民・行政・NPO・企業が連携した地域づくりが必要になってきています。

このような状況に対処するため、私は地域計画学の立場で地域づくりのプロジェクトを運営する中、市民や地域組織が主体となる地域づくりやコミュニティデザインの手法を活用する実践的研究を実施しています。また、市民活動を促進するための支援制度のあり方、市民が公的領域を担うことの意味や効果にかかわる研究に取り組んでいます。



地域における研究成果の報告  
(平内町藤沢地区)



行政計画策定時の市民ワークショップ  
(弘前市)



学生によるフィールドワーク  
(弘前市小比内地区)

RESEARCH HIGHLIGHTS ②

地層中に残された自然災害の痕跡を見いだす



梅田 浩司

レジリエンステクノロジー研究領域

(E-mail) umeda@hirosaki-u.ac.jp  
 (Website) [https://researchmap.jp/umeda\\_k/](https://researchmap.jp/umeda_k/)

突発的な事象により地質学的な時間スケールに比べて、瞬間的に形成された堆積物を総称したものを「イベント堆積物」と呼びます。ここでいうイベントとは、噴火や地震、津波に洪水、さらには地すべりなどの自然災害を引き起こすような現象のことであり、地層中に残されたイベント堆積物を調査することで、これらの現象の発生間隔や規模などを明らかにします。これによって将来発生し得る自然災害の発生時期や、その大きさの規模の評価に貢献することができます。

弘前大学大学院地域共創科学研究科の理念である「地域を守る」といった観点から、これまでに青森県西津軽沿岸の地震津波や、岩木川水系の氾濫流によって形成されたイベント堆積物などの研究に従事してきました。イベント堆積物の研究以外にも、地下水汚染や放射性廃棄物処分などの環境問題の解決に向けた研究にも積極的に取り組んでいます。



五所川原市十三五月女藩のトレンチ調査

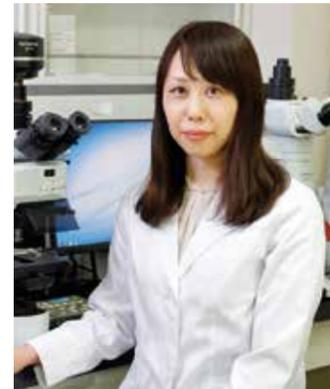


白矢印は、1741年の渡島大島の噴火・山体崩壊によって発生した靫保津波に由来するイベント堆積物



RESEARCH HIGHLIGHTS ③

食生活が疾患発症に及ぼす影響を明らかにする



山元 涼子

食産業イノベーション研究領域

(E-mail) yamamoto.r@hirosaki-u.ac.jp

人が誕生してから命を終えるまで、生命を維持するために栄養を必要とします。その栄養の供給源である食品は、私たちが健康にも不健康にも導きます。

当研究室では、食生活と疾患の関係に着目した研究を行っています。特に注目している疾患の一つが、アルコールを摂取しない人でも発症する可能性がある脂肪肝、「非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD)」です。NAFLD の発症には食生活が影響していると考えられていますが、そのメカニズムは十分に解明されてはいないのです。そこで私達の研究室では、どのような栄養状態が NAFLD の発症に影響しているかを調べています。また、どのような食品を摂取することが NAFLD の予防や治療に有効なのか、ということについて研究を行っています。本研究を通じて、NAFLD の予防や治療を目的とした、食事療法の開発へ貢献することを目指しています。



RESEARCH HIGHLIGHTS ④

起業機会の誕生と実現に関する研究



高島 克史

グローバルビジネス研究領域

(E-mail) katsushi@hirosaki-u.ac.jp

政府や地方自治体のバックアップもあり、起業する人が増えています。起業した人の中には、経済や社会に大きな貢献をしている人もいます。私の研究における基礎的な疑問は「起業機会やアイデアはどのように生まれ、実現されていくのか」というものです。この疑問を解くために、アントレプレナーシップ研究に注目しています。これまでの研究だと、起業家個人の特性に注目した研究が一般的です。一例を示すと、達成欲求の高さや革新的行動が起業機会や起業アイデアの誕生と実現に寄与しているというものです。もちろん、このような心理特性や行動特性が影響していることは否定できません。

ただ私は別の観点から研究をしています。つまり、起業家の心理特性や行動特性のほかに、起業家を取り巻く様々な人間関係に注目し、多様な人々との関わり合いと起業機会の発見・実現との関係性について研究を進めています。



## 修了生の声



令和3年度  
地域リノベーション専攻 修了  
東京ソイルリサーチ 札幌支店  
技術調査課 勤務  
渡邊 駆さん

私は大学院では地震動に関する研究室に所属しており、軟弱地盤（八戸市や三沢市などを対象とした）で表層改良を行った場合、入力地震動にどのような影響を与えるのかを研究していました。研究をする際には、有限要素法を用いたFEM解析で地盤応答解析をしていました。

私が入学した2020年4月はコロナウイルスの影響力が大きい時期で、1年生時の大半の活動がオンラインであり、大学院生という感覚もあまり無く、慣れないことばかりでした。しかし、2年生時には徐々に学校へ行く機会も増え、研究に打ち込むことができ、無事修了することができました。

現在は東京ソイルリサーチという会社に勤めており、地盤調査の仕事に就いています。柱状図やN値、地震動の見方、微動測定など、研究で用いた知識は大いに活用されており、予備知識があったおかげで仕事に慣れるのも幾分か早かったと思います。この仕事は専門的な知識を多く必要とするため、しかし、まだまだ覚えなければならないこともたくさんあります。また、研究を進めている最中に東京ソイルリサーチという会社も知ったため、この道に進むきっかけともなっています。

私は大学生時代に自分でどのような仕事をしたいのかを決めかねていましたし、将来への不安もありました。大学院での研究はより専門的なものになるため、自分の進むべき道もより鮮明になります。2年間という期間は長いようで短い時間です。まだ学び足りないと思う方はぜひ大学院へ進学することをお勧めします。



令和3年度  
産業創成科学専攻 修了  
(株)ニヤクコーポレーション 勤務  
郭 宣蓉さん

私は2020年4月から2022年3月まで、産業創成科学専攻グローバルビジネス研究領域に在籍していました。在学中、私は青森県産りんごの中国輸出を修士論文のテーマとしてまとめました。世界一のりんご生産大国の中国市場に青森県産りんごはどのように参入していくのか、青森りんごのブランド化と販売チャネルの構築が重要と考え、調査と研究を進めました。コロナ流行と重なってオンライン授業が多く、教員や院生との対面交流に制限がありました。また現地調査もほとんどできませんでした。対面によるコミュニケーションの大切さを痛感した2年間でした。

現在はニヤクコーポレーションに勤めています。物流関連の会社で、危険物を輸送するサービスを提供しています。自分は事務職です。データ分析、書類作成、会社には顧客情報や売上など、企業経営にかかわる膨大なデータが存在します。それらのデータを管理したり、営業や経営に必要なデータの集計やチェックを行ったりすることも事務の仕事です。大学院で学んだ経営学の基礎や会計学が今の仕事に生かされていると思います。

また、弘前大学には国際連携本部（サポートオフィス）があり、日本の学生たちと交流のチャンスが多く、日本語と日本の文化をしっかりと勉強できます。地方の大学で学んだことが自分の人生にとってかけがえの無い財産となっています。現在の仕事は国内業務がほとんどで高い日本語能力が要求されます。ぜひ、弘前大学で開講している日本語クラスを積極的に履修して日本語能力の向上を目指して下さい。

留学生の皆さん、弘前大学大学院地域共創科学研究科への進学をお勧めします。

## 就職支援

弘前大学教育推進機構キャリアセンターでは、インターンシップ、就職ガイダンス、業界研究会、各種企業説明会、就職相談、求人開拓及び情報収集等、さまざまなキャリア支援を行っています。

### ■就職・進路相談

専任のキャリアアドバイザーが、年間を通して相談を受け付けています。相談の対象は大学院生を含む弘前大学の学生全員で、学年の制限はありません。

### ■求人票等の閲覧

求人検索システム「弘前大学キャリアコミュニティ(キャリアコム)」による求人情報の公開を行っています。学内外のどこからでも閲覧・検索することができます。

### キャリアセンターの利用について

学年・学部を問わず、どなたでも利用できます。

◎利用時間／月曜日～金曜日（祝日・年末年始等を除く）

◎授業期間中／9:15～18:00 ◎休業期間中／9:15～17:00

◎場所／総合教育棟1階

◎TEL／0172-39-3129 ◎FAX／0172-39-3131 ◎E-mail／scc@hirosaki-u.ac.jp

◎ホームページURL／<https://career.hirosaki-u.ac.jp/>



## 令和3年度修了生進路状況

